

大分県支部

企業の農業参入に関する調査・研究

農地法の改正により企業が農業分野に進出するための条件が整ってきており、建設業などを中心に農業参入は今後も増加することが予想されます。(社)中小企業診断協会大分県支部において委員を募り『企業の農業参入に関する調査・研究』を実施しました。調査研究では、農業参入する企業を取り巻く環境と大分県内の参入企業の状況を調査した上で4つの企業の視察を実施しました。

なお報告書は、以下の構成になっています。

第1章は、テーマ選定の理由と目的と調査研究の進め方について記述しています。

第2章では、全国的な参入動向と背景について調査した結果をまとめ、農業の現場、農業政策、農地法、行政の助成などの参入を取り巻く環境について記述しています。行政の助成については、大分県における積極的な取り組みについても紹介しています。

第3章では、「財務の視点から見た農業参入」と題して法人形態、会計、税務についてまとめ、農業法人の財務状況について分析を行っています。

第4章では、視察を行った4つの企業「(有)宇佐重機」、「(有)橋本産業」、「(株)クローバー食品」、「(株)アクト化成」のそれぞれの視察レポートとなっており、最後にそれぞれの企業に共通する点、異なる点をまとめ、その中から参入の成功要因を探っています。

第5章では、参入の課題と提言を行っています。ここではそのエッセンスだけを紹介します。

1.参入の課題

①「収入が少ない」、②農業の担い手が少ない、③生業的な農業経営体質、④自然相手によるリスク、⑤独自の販路・消費者、⑥新技術、新製品の開発と改良、⑦長期的な資金繰りへの配慮、⑧地域のコミュニティとの連携

2.提言

「志脳交匠」というキーワードで、将来の農業、農業ビジネスを考えるヒントとしてみました。

「志」…NEW農業を目指すという目標を掲げ、熱いハートを以て、変革実現を志向して企業組織を使って行動する気概があること。

「脳」…頭脳を使った農業の実現。まず、企業的経営基盤を持つこと、次に収益、利益を実現すること、さらに、リスクとリターンを計った上で戦略的行動を採ること。

「交」…農業分野だけでなく、商工業等異業種や大学、公設試験研究機関等いろいろな分野、組織との交流、連携を通じて、情報交換、商売取引、新事業を模索すること。

「匠」…保有する経営資源を高度化することが成長に繋がります。変革、創造への挑戦と学習を通じて、経営者、従業員が成長します。